

大阪府感染症発生動向調査週報（速報）

2019年 第28週（7月8日～7月14日）

今週のコメント

～手足口病～ 手洗いの励行と排泄物の適切な処理が重要

定点把握感染症

「手足口病 ピークは過ぎつつあるが、流行続く」

第28週の小児科定点疾患、眼科定点疾患の報告数の総計は4,104例であり、前週比2.4%減であった。定点あたり報告数の第1位は手足口病で以下、感染性胃腸炎、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、ヘルパンギーナ、伝染性紅斑の順で、定点あたり報告数はそれぞれ8.57、4.38、2.34、2.21、1.09であった。

手足口病は前週比2%減の1,689例で、南河内12.56、豊能10.36、北河内10.19、大阪市南部9.72、大阪市西部9.60であった。

感染性胃腸炎は7%減の862例で、南河内8.50、北河内5.26、中河内5.00である。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は微減の460例で、南河内5.19、北河内3.44、中河内3.00であった。

ヘルパンギーナは微増の435例で、大阪市北部4.31、豊能3.41、大阪市南部2.78である。

伝染性紅斑は16%減の215例で、北河内2.82、泉州1.85、堺市1.26であった。

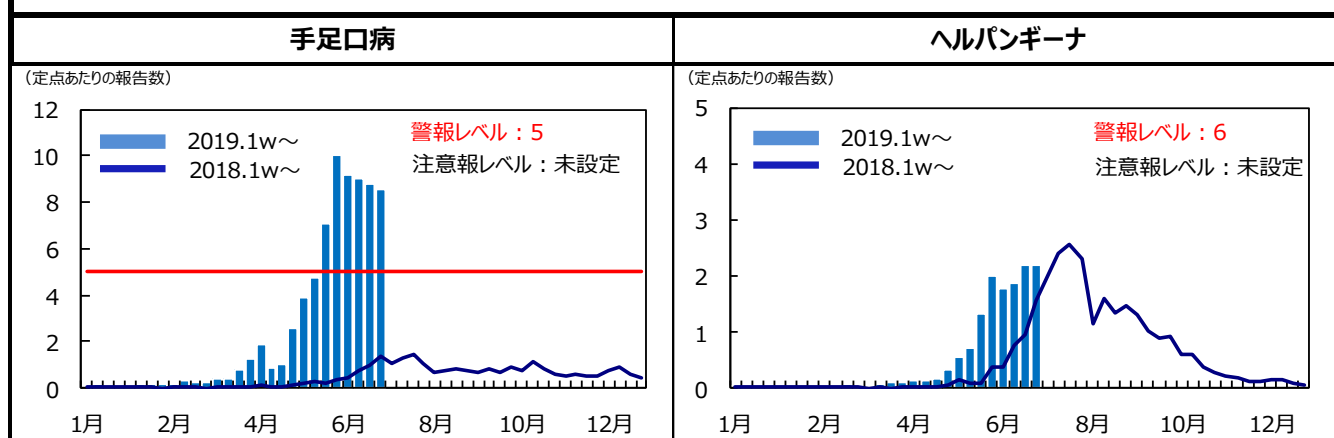


表1. 大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向（2019年 第28週7月8日～7月14日）

第28週の順位	第27週の順位	感染症	2019年 第28週の 定点あたり 報告数	前週比 増減	2018年 第28週の 定点あたり 報告数	2019年第28週の 年齢別 患者発生数 最大割合値
1	1	手足口病	8.57	2%減	1.41	1歳_29%
2	2	感染性胃腸炎	4.38	7%減	4.65	1歳_17%
3	3	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2.34	0.4%減	2.65	6歳_15%
4	4	ヘルパンギーナ	2.21	0.5%増	1.57	1歳_23%
5	5	伝染性紅斑	1.09	16%減	0.17	4歳_16%

第28週のコメント

～梅毒～ 大阪府における2019年の梅毒報告数は500例を超え、2018年同時期と同程度

全数把握感染症

梅毒

国内の梅毒の報告数は、2010年より増加傾向にある。大阪府における2018年の報告数は、1100例を超え、前年比1.4倍を上回った。感染症法が施行された1999年以降、最も多く報告されている。梅毒は、性行為・オーラルセックスにより、生殖器、口、肛門の皮膚や粘膜の微細な傷口から菌が体内に侵入し感染する。また、妊娠時に胎児が胎盤を介して感染し、「先天梅毒」になることがある。梅毒は、適切な抗菌薬の投与で治癒が期待できる。

[感染症疫学センターはこちらへ\(外部リンク\)](#)

[梅毒とは\(国立感染症研究所\)](#)

(累積報告数)

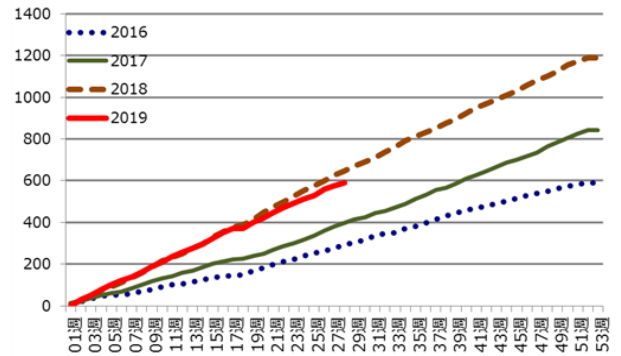


表 2. 大阪府全数報告数 (2019年 第28週7月8日～7月14日)

注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります
(報告があった疾患のみ記載しています)

疾患名	報告数	豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市	府内累積報告数
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	3	1		1				1	68
4類感染症	E型肝炎	1						1		4
	デング熱	1						1		25
5類感染症	カルバペナム耐性腸内細菌科細菌感染症	4	1	1	1			1		90
	急性脳炎	2	1		1					17
	侵襲性肺炎球菌感染症	3					1	1	1	171
	水痘(入院例)	2		1					1	13
	梅毒	12	5		2			1	4	589
	百日咳	15	5	1		1		3	2	3
結核 (2019年5月分)	結核 新登録患者数：150名 (内 肺・喀痰塗抹陽性 49名) (府内累積報告数 708名、内 肺・喀痰塗抹陽性 267名)									

(2019年7月16日 集計分)